

製品名: Atg4b ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07292**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	44kDa

抗原情報

遺伝子名	ATG4B ATG4B; APG4B; AUTL1; KIAA0943; Cysteine protease ATG4B; AUT-like 1 cysteine
別名	endopeptidase; Autophagin-1; Autophagy-related cysteine endopeptidase 1; Autophagy-related protein 4 homolog B; hAPG4B
遺伝子 ID	23192.0
SwissProt ID	Q9Y4P1
免疫原	抗血清はヒト ATG4B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

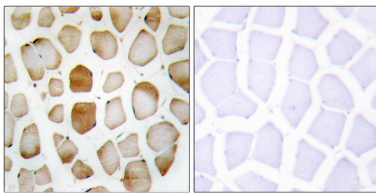
背景

オートファジーは、内因性タンパク質や損傷した細胞小器官を細胞内で破壊するプロセスです。オートファジーは、分化、変態、非アポトーシス性細胞死、そして老化における細胞の恒常性維持と細胞リモデリングに不可欠であると仮定されています。一部の悪性腫瘍ではオートファジーレベルの低下が報告されており、がんに関連する制御不能な細胞増殖の制御におけるオートファジーの役割が示唆されています。この遺伝子は、オートファジタンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、システインプロテアーゼの C-54 ファミリーのメンバーとしても指定されています。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエントが特徴付けられています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月], 酵素制御: N-エチルマレイミドによって阻害される。 , 機能: オートファジーに必要なシステインプロテアーゼ。 MAP1LC3、GABARAPL2、または GABARAP の C 末端部分を切断し、フォーム I を遊離させる。 フォーム I の一部はその後、より小さなフォーム (フォーム II) に変換される。 C 末端グリシンが露出したフォーム II は、ホスファチジルエタノールアミン (PE) 結合型と考えられており、オートファゴソームに結合する能力を有する。 , 類似性: ペプチダーゼ C54 ファミリーに属する。 , 組織特異性: 主に骨格筋で発現し、次いで脳、心臓、肝臓、膵臓で発現する。 ,

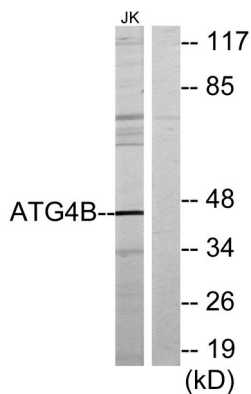
研究分野

オートファジーの調節;

画像データ



ATG4B 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ATG4B 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンに合成ペプチドでブロッキングされている。

Atg4b ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析

